

東口地下自転車駐車場 JR 用地活用の検討

・公共用地による東口地下自転車駐車場のレイアウトの課題について、以下の3つの基本的な計画条件のもとに JR 用地活用を行った場合の検討を行う。

【計画条件】

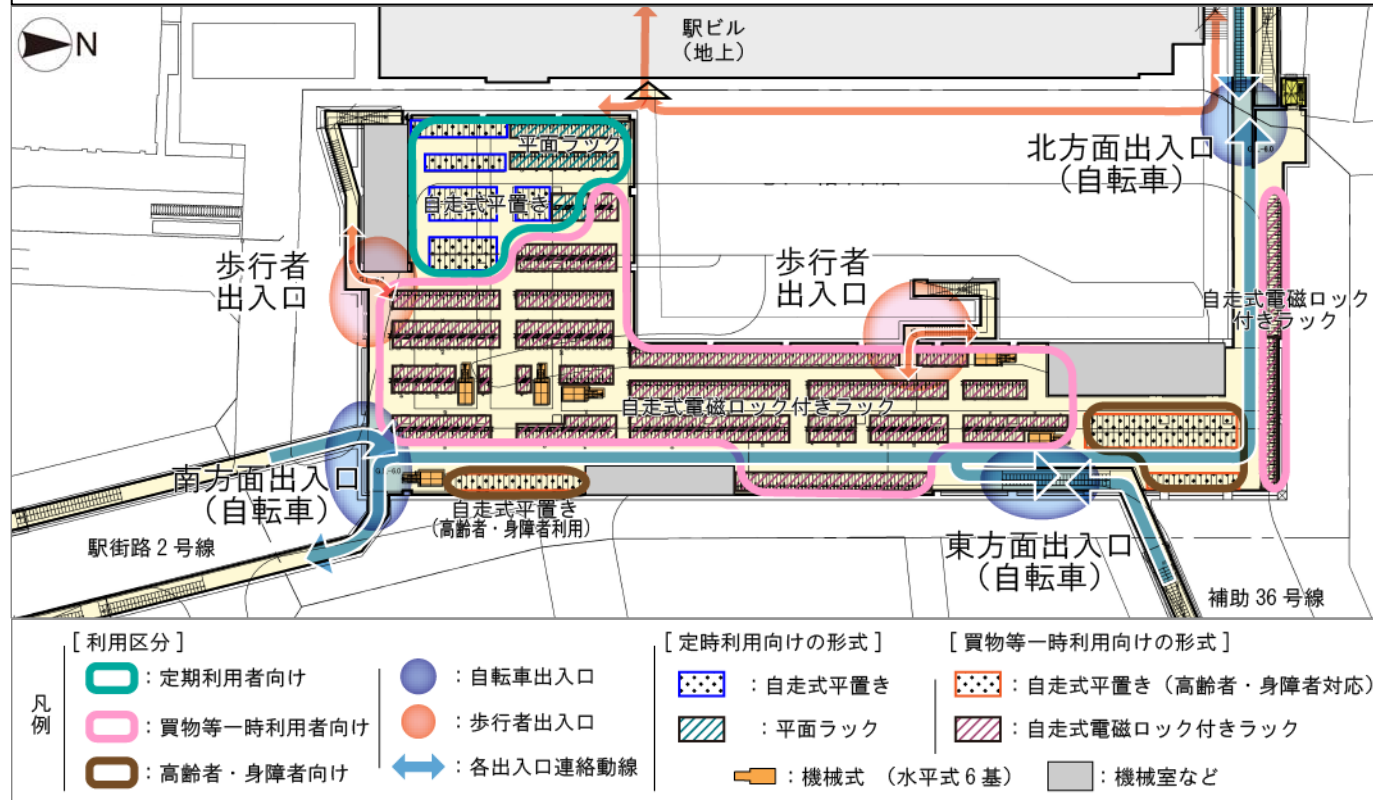
- ①目標台数の考え方 3000 台程度確保 ⇒形式と台数) 自走式平置き 200 台程度、平面ラック 400 台程度、自走式電磁ロック付きラック 900 台程度、機械式 1,500 台以上
  - ②利用区分別の配置と動線の考え方 ⇒買物等一時利用は東・南方面出入口付近、通勤・通学等定期利用は中央付近を基本に駐車設備を配置  
⇒出入口相互を結ぶ連絡動線(幅員 3.0m程度)を配置
  - ③場内通行路幅、スロープ幅等の考え方 ⇒通行路幅最低値:1.3m 斜路付階段幅最低値:0.9m 斜路幅最低値:0.3m (参考:「自転車駐車場整備マニュアル 建設省都市局」)
- ※躯体の考え方 ⇒敷地幅を考慮し、公共用地のみの場合は柱割りの間隔を 8.5m、JR 用地活用では 9.0mを基本とする

【前回(第6回推進会議)からの変更点】

- ①南側出入口を区役所前から駅街路2号線に変更  
→環状8号線方面からの走行空間と連続した出入口を確保するため
- ②従来の検討から土被りを見直し、配置検討  
→地上との出入りに際して、スロープや階段の長さの短縮、わかりやすい接続通路の配置が可能

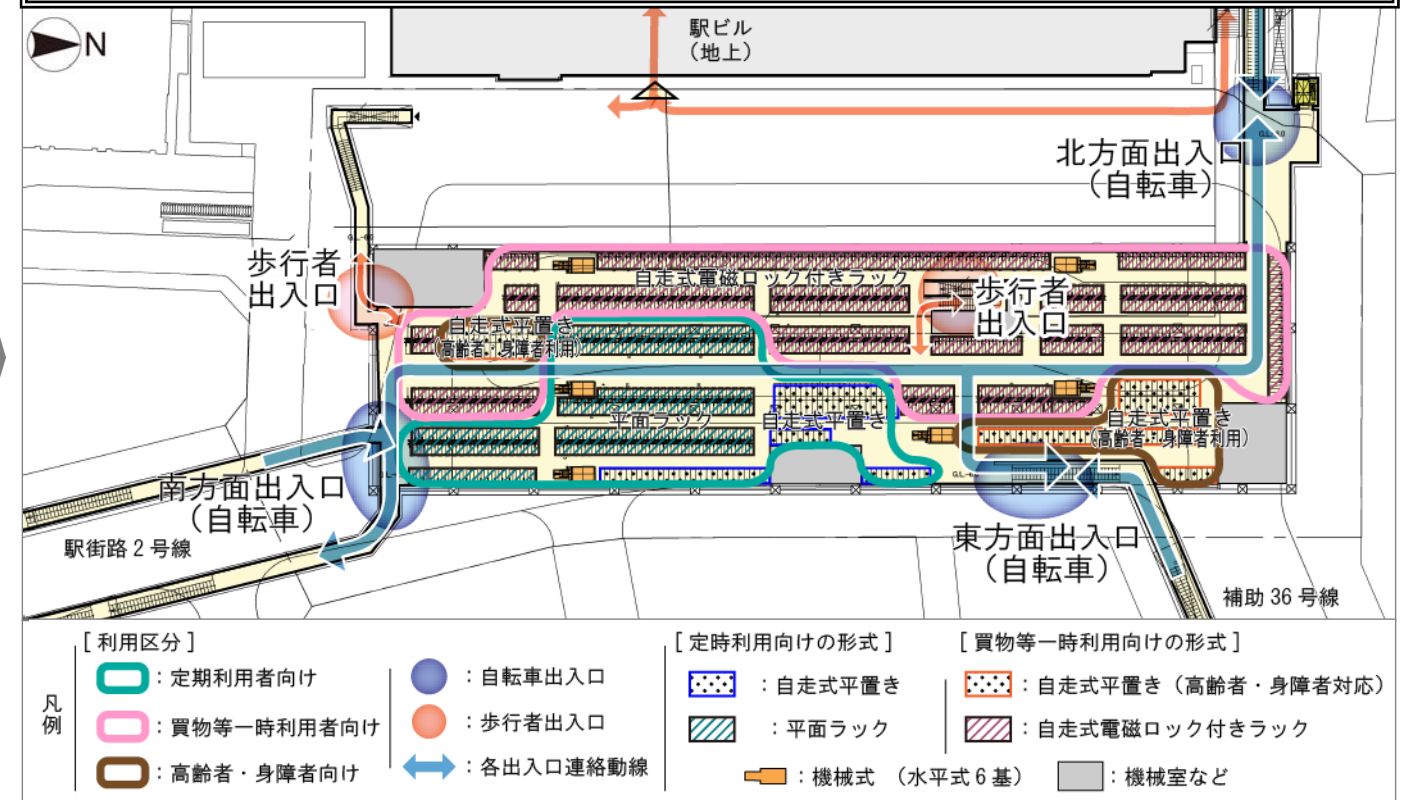
【公共用地によるレイアウトの課題】

- ・駐車場躯体の形状が不整形なことから、効率的な配置が難しく、必要台数の確保が困難
- ・利用目的に応じた駐車設備の配置が困難
- ・機械式設備の配置が駐車場躯体の形状により、南側に偏る
- ・駐車場内北側の狭い部分に動線が集中し、利便性に支障
- ・駐輪場内部の視認性が悪く、防犯安全性に支障



【JR 用地活用による課題解決】

- ・効率的な配置による必要台数以上の確保
- ・利用目的に応じた駐車設備の配置
- ・方面別利用率の高い北東方面に駐車設備を配置可能
- ・動線が明確かつ十分な幅員が確保可能
- ・視認性の確保、防犯安全性の向上



駐車設備の区分	検討案における収容台数(台)		
	公共用地案	JR 用地活用案	計画条件
自走式平置き	190	200	200
平面ラック	78	414	400
自走式電磁ロック付ラック	900	913	900
機械式(水平式6基)※	1,548	1,755	1,500
合計	2,716	3,282	3,000

※機械式は各案6基配置することは共通であるが、敷地形状に合わせて配置するため1基あたりの収容台数はそれぞれ異なる。

【施工上の効果】

- ・駅ビル側への近接度合いが小さく、施工上の問題が生じにくい
- ・地上交通の切り回しがしやすい
- ・駅利用者への影響が軽減される
- ・施工期間の短縮が見込める
- ・工事費の低減が見込める